

平成28年度事業報告

＜要 旨＞

平成27年度より内閣府公益認定等委員会に提出していた「公益目的事業並びに収益事業の変更認定申請」が平成28年6月30日に承認された。これによって、公益目的事業2の「地域の輪・和・環プロジェクト（車椅子寄贈）」、公益目的事業3の「日本列島クリーン大作戦」「日本列島コスモス作戦」が公益目的事業1に集約され、“「小さな親切」運動の全ての事業が「小さな親切」運動を通じて国民の心身の健全な発達と豊かな人間性を涵養し、特に児童又は青少年の育成を通じ、社会の健全な発展を目的とする事業”に一本化された。

加えて、「エコキャップ収集運動」と「心の国際交流」は公益目的事業を終了し、一般事業へ移行。会員・地域組織の自主活動となった。

事業については「運動方針」と「重点活動」に則して実施。その活動概況を報告する。

1. 平成28年度の運動方針

日本の美風の「蘇生」と「新生」

公益社団法人に移行後、定款や諸規程の改正、事業の見直し等続け、平成28年度に概ね終了したことから、「新生」への第一歩を踏み出した。

また、あいさつ運動「みんなつながろ、トモダチ作戦」は徐々に広がりを見せ、学校を中心に取組まれた。初代代表の茅誠司代表が考案した「小さな親切」八か条の第1条“朝夕のあいさつをかならずしましょう”が、現在も人と人をつなぐコミュニケーションツールとして「蘇生」した。

2. 平成28年度重点活動

1) 寄附金の呼びかけ

年間を通じて、ホームページや情報誌「小さな親切」で寄附を呼びかけた結果、一人一人の金額は大きなものではないが、今までより多くの会員や実行章受章者から寄附が寄せられた。

2) 「小さな親切」実行章

地域組織（県本部、支部）が、県警本部や地元警察署に働きかけ、警察官、住民相互の実行章推薦活動の拡大を図った。

3) 日本列島クリーン大作戦

三重県での「伊勢志摩サミット」開催に伴い、日本の美しさの原点には美しい心があることをピーアールしようと伊勢志摩サミット記念クリーン作戦を実施。クリーン作戦は、ごみを拾うことを通じて、ごみを捨てない心づくりを目指す目的を再確認した。

【公益目的事業 1】

1. 「小さな親切」実行章贈呈事業

- 平成 28 年度の実行章贈呈総数は 61,752 名で、前年度比 13,607 名減少。これまでの実行章贈呈者数累計は 5,800,319 名となった。
- 実行章受章者が、相次いで 575 万人（第 634 回・平成 28 年 7 月 25 日発表）、580 万人（第 642 回・平成 29 年 3 月 25 日発表）を突破した。
 - 575 万人目：栃木県佐野市立天明小学校 3 年の藤倉亮くん。藤倉くんは、クラスをよくするための提案をしたり、困っている同級生に声をかけている。実行章は、全国表彰式の席上で贈呈。
 - 580 万人目：岩手県宮古市立新里中学校（全校生徒数 57 名）。同校は、毎年夏と冬に日頃お世話になっている公共施設の清掃活動に取り組んでおり、実行章は岩手県本部の総会の席上贈呈された。
- 警察と住民との交流促進による、住みよく安全な地域作りを目的に、各組織に協力を依頼し、警察官と一般市民、相互の推薦の拡大を目指した。9 道県本部が警察本部や警察署に実行章の推薦呼びかけを行ったところ、親切な警察官の推薦は 37 件（前年度 28 件）、警察官からの一般市民の推薦 51 件（前年度 22 件）、と共に増加した。特に警察官による市民の推薦は目立って増加している。
- 実行章バッジ販売数 1,981 個（前年度比 11 個増）
- ホームページリニューアル後、徐々にではあるが会員以外の実行章への問い合わせや推薦が増加した。

2. 第 41 回「小さな親切」作文コンクール

- 応募総数は 47,529 編（内訳：小学生 862 校 12,181 編、中学生 679 校 35,348 編）で、昨年比約 3,000 編減となった。減少要因としては、昨年度は第 40 回というきりの良い実施回を記念して、応募の呼びかけに力を入れた地域組織があり大幅に増加したものが、平年並みに戻ったことによる。
- 一方で、山口県本部のように、作文コンクール未開催の支部にも参加を広く呼びかけた結果、昨年より約 1,000 編増加した地域組織もあった。
- 応募者総数上位 3 県：1 位は福井県 6,142 編、2 位は静岡県 5,744 編、3 位は千葉県 5,643 編となった。
- 海外の日本人学校に広く応募要項を配布した結果、応募が 8 カ国から 13 カ国、応募数は 3 倍に増加した。
- 11 月 26 日の表彰式には、176 名（入賞児童生徒 58 名・保護者 118 名）が出席。

後 援	内閣府 文部科学省 NHK 毎日新聞社
協 賛	カシオ計算機(株) (株)サクラクレパス
テ ー マ	「小さな親切」－私のした・うけた・みた・できなかった親切－
特別テーマ	伝えたい日本のこころ ～外国の方との出会いを通して～
応募資格	小学生・中学生（小中学生と同じ学齢のものを含む）
応募字数	400 字詰原稿用紙 3 枚（1200 字）以内
締め切り	9 月 26 日（月）必着
審 査	第 1 次審査：9 月 27 日（火）～10 月 4 日（火） 審査員 14 名（元小中学校長ほか）
	第 2 次審査：10 月 16 日（日）

	審査員 10 名（元小中学校長ほか）	
	作文審査員審査会：10 月 28 日（金）	
	審査委員 5 名（内閣府、文部科学省、毎日新聞社ほか）	
入賞者数	130 名 内訳：内閣総理大臣賞 1 名・文部科学大臣賞 1 名・運動本部賞 2 名・特別優秀賞 6 名・優秀賞 20 名・入選 100 名	
副賞	カシオ計算機(株)：カメラ、電波時計各種 (株)サクラクレパス：文房具セット 運動本部：メダル	
要項・入賞発表	毎日新聞 / 5 月 19 日（木）	11 月 18 日（金）
	教育新聞 / 6 月 20 日（月）	12 月 8 日（木）
表彰式	11 月 26 日（土） 全国表彰式席上	
〔作製物〕	ポスター 6,000 部	応募要項 9,000 部

3. 青少年すこやか育成事業 <（公財）JKA 補助事業>

<工作教室>

- 熊本地震発生を受け、当初の計画を変更し調整をはかった結果、夏休み期間の大分県杵築市山香児童館で実施し、大分県本部、杵築市支部に協力いただいた。なお、熊本県は被害が大きく受け入れ体制が整っていないことから、次年度再度調整することになった。
- 前年度に引き続き、廃材を利用したおもちゃづくりに挑戦。メッセージカードにもなる「パクパクカード」制作では、作る楽しみに加えて家族や友達と楽しみを共有する楽しさを伝えると共に一つの作品が何通りにも活用できることを知ってもらうことで、子どもたちの創造力の育成につながった。

<紙芝居授業>

- 地域組織の協力のもと、新たに 4 県（青森県、埼玉県、三重県、広島県）で実施できた。
- 東京都中野区立塔野山小学校では、学校公開日に授業を実施。参観にきていた保護者や地域の方々にも紙芝居授業を知ってもらうことができた。
- 紙芝居『つなみのひ』『まつりのひ』は、東日本大震災の被災地である岩手県宮古市を取材して作製したものであるが、同市宮古図書館より、ホームページをみて紙芝居の注文があった。被災地域からの問い合わせは初めてで、2 作品を無料で寄贈した。

<声優さんによる紙芝居>

- 福島県本部の協力で、人権教育総合推進地域で、帰宅困難区域のすぐそばに位置する田村市立常葉小学校で実施した。
- 紙芝居を心待ちにしていた子どもたちは、プロの声優が演じる物語の世界と全身をつかったゲームを楽しんだ。

1) 被災地域向け

■工作教室 in 大分県

講師	有賀 忍（板絵画家・江戸川大学こどもコミュニケーション学科客員教授）	
準講師	木村事務局次長 五味職員	
	※大分県本部事務局長・参与、杵築市支部事務局長がサポート	
日時・場所	平成 28 年 8 月 18 日（木） 杵築市山香児童館	
	参加者：児童 38 名	
テーマ	『廃材を利用したおもちゃ作り』	

■声優による紙芝居 in 福島県

演 者 永澤菜教（声優 / 「ちびまる子ちゃん」ブー太郎役他）
補 助 木村事務局次長 五味職員
上演作品 「きつねとごんろく」「おねぼうなじゃがいもさん」「やさしい ところ」
時・場所 平成 29 年 2 月 6 日（月）田村市立常葉小学校 参加者：127 名

2) 被災地域外向け：『まつりのひ』を用いた紙芝居授業の実施

講 師 馬場喜久雄（全国小学校道徳教育研究会顧問）
宮島 盛隆（済美教育センター指導教授・白百合女子大学講師）

準講師 木村事務局次長 五味職員

実施校 6 校

平成 28 年

10 月 7 日（金）東京都杉並区立馬橋小学校 4 年

講師：馬場喜久雄、宮島盛隆 準講師：五味職員

10 月 17 日（月）三重県桑名市立大和小学校 3、4 年

講師：馬場喜久雄 準講師：木村事務局次長 五味職員

10 月 31 日（月）青森県青森市立橋本小学校 1・2 年、3・4 年、5・6 年

講師：馬場喜久雄 準講師：木村事務局次長 五味職員

12 月 12 日（月）広島県呉市立宮原小学校 1・2 年、3・4 年、5・6 年

講師：宮島 盛隆 準講師：木村事務局次長、五味職員

平成 29 年

1 月 14 日（土）東京都中野区立塔山小学校 3 年、4 年

講師：馬場喜久雄 準講師：五味職員

2 月 24 日（金）埼玉県さいたま市立浦和別所小学校 4 年 4 クラス

講師：馬場喜久雄 準講師：五味職員

3) オリジナル紙芝居の増刷 『つなみのひ』 500 部

4) 専用ホームページを通じた教育活動

これまでレポート主体だったが、子どもたちがより興味を持てる見せ方、内容にページ全体を改編した。

4. みんなつながる、トモダチ作戦事業

- 当事業 3 年目にして、あいさつ運動実施校（団体）の活動報告を基に、楽しく、継続性のある取り組みにするための工夫等を評価し、大賞 1 校と優秀賞 2 校を表彰した。受賞校からは、あいさつ運動の効果は実感しているが、外部からきちんと評価を受けたことで今後の活動の励みになるとの声があった。
- ホームページのリニューアルに伴い、あいさつ推進グッズの無料提供や活動事例などを分かりやすく掲載したところ、グッズを希望する学校（団体）が増加した。
- 三重県本部では、クリーン大作戦に参加している学校に参加を呼びかけたり、推進グッズを紹介した「県だより」を、教育委員会を通じて学校に配布するなどしたところ、徐々に参加校が増え、現在 30 校あまりの学校があいさつ運動に取り組んでいる。また、学校だけでなく PTA や近隣住民などが連携した、地域ぐるみの大規模な取り組みもあり、その地域には、のぼり用のポールとスタンドを県本部が自費購入し寄贈した。
- 山陰本部では設立 20 周年を記念し、組織名をいれたのぼりを作製し、会員企業に無料配布した。これがきっかけとなり、島根県の企業が、小学生の登校時間に合わせてあいさつ運動を開始したいとの申し出があり、中央本部から追加のグッズを提供した。

1) あいさつ推進グッズ・活動事例集の提供

対 象	学校、団体
提供箇所	114ヶ所（学校 108 校、6 団体／30 道府県で展開）
配布物	たすき 1,205 本
	のぼり 418 本（ポール、スタンドなし）
	ポスター 306 枚×2 種
	活動事例集 350 冊

※1 団体につき、たすき 10 本、のぼり 3 本、ポスター 2 種・4 枚を基本とした。

2) あいさつ運動実施団体の表彰

応募資格	あいさつ運動に取り組んでいる学校・団体（あいさつ推進グッズを活用）
応募方法	活動報告書を中央本部へ提出
活動報告提出期間	平成 28 年 4 月～9 月末日
表彰審査会	平成 28 年 10 月 4 日（火）
入賞（3 団体）	

あいさつ運動大 賞（1 団体）	佐賀県 佐賀市立嘉瀬小学校
あいさつ運動優秀賞（2 団体）	北海道 札幌市立大倉山小学校
	千葉県 布施学校組合立布施小学校

表 彰	①大 賞：平成 28 年 11 月 26 日（土）全国表彰式で表彰 児童 2 名が活動報告を行う
	②優秀賞：後日、同校を訪問し、北海道本部、御宿支部より表彰 中央本部が活動取材した

副 賞	オリジナル大漁旗
-----	----------

5. ことばの魔法プロジェクト

1) 第 3 2 回「小さな親切」はがきキャンペーン

- 応募総数は 2,663 編で、昨年比 658 編増。応募者拡大に向け、会員向け告知の強化、一般向け公募情報雑誌「公募ガイド」誌面等への要項掲載が功を奏した。また、地域組織の告知協力により、学校単位の参加が増えたことも、応募数増の一因となっている。
- 作品内容としては、4 月に発生した熊本地震に関連するものや、海外で受けた親切などが急増している。
- 応募者は幅広い世代から応募がよせられた。例年、60 から 70 代の応募が過半数を占めていたが、当該年度は「公募ガイド」購読層と思われる 40 代の応募（構成比、昨年度 9%から 19.1%）が増加した。

後 援	日本郵便(株) 読売新聞社
協 賛	(株)河出書房新社
テーマ	1) あなたへありがとう 2) 「やだな！」自分だったら…

応募対象	子どもから大人まで
応募方法	はがき及び専用フォーム、メールで応募（いずれも 600 字以内）。 タイトル、氏名、年齢、職業、住所、TEL を明記
締め切り	9 月 23 日（金）当日消印有効

審査会 10月21日(金)
 審査員 5名(日本郵便㈱ 読売新聞社 ㈱河出書房新社ほか)
 入賞・入選者 25名
 内訳/大賞 日本郵便賞1名・運動本部賞1名・読売新聞社賞1名
 河出書房新社賞1名・審査員特別賞1名・入選20名
 副賞 上位賞:切手帳、図書カード、高級文具
 入選:図書カード、書籍、文具
 要項・入賞発表 読売新聞 / 7月22日(金)・11月18日(金)
 レターパーク8月号・公募ガイド9月号
 運動本部ホームページ・情報誌「小さな親切」夏号
 表彰式 平成28年11月26日(土) 全国表彰式席上
 出席者16名(入賞者8名・家族8名)
 [作製物] 応募要項 7,000部

2) 一人暮らしのお年寄りへ「お便り便」

- 北九州市本部をはじめとした地域組織が地元団体や学生と連携を図りながら取り組んでいるが、活動としては一部地域にとどまっている。

3) 記念日に大切な人へ Thanks Letter

6. 平成28年度「小さな親切」運動全国表彰式

- 運動大賞を複数回受賞した地域組織を対象に、最高賞にあたる「Best Kindness Award」を新設。全国一位の会員数と多岐にわたる活動を推進している静岡県本部に贈呈した。
- 当該年度は次第に、実行章575万人目とあいさつ運動大賞の表彰が加わり、小学生の親切がクローズアップされた。
- 近年、プログラムの内容や受賞者の参加が増えたことから、式典の時間を30分延長。12時30分～15時30分とした。
- アトラクション出演者の沖田夫妻のご厚意により、ウエルカム演奏で参加者を迎えたほか、作文表彰時にはヴィオラ・ピアノ演奏で会場の雰囲気盛り上げた。

後援 内閣府 文部科学省 NHK
 と き 平成28年11月26日(土) 12:30～15:30
 と ころ 東京・霞が関ビル35階 東海大学校友会館
 プログラム 司会 高山哲哉(NHKアナウンサー)
 主催者あいさつ 代表 鈴木恒夫
 来賓あいさつ 内閣府大臣官房総務課管理室室長 上村秀紀
 表 彰 内閣官房長官賞 5名
 志摩 健一 山形県米沢「小さな親切」の会理事
 新保 力 長野県松本支部代表
 森 巖 奈良県あやめ池支部代表
 甲本 孝朋 岡山県岡山商科大学経営学部特任教授
 打越 謙司 香川県庵治町支部代表
 Best Kindness Award 「小さな親切」運動静岡県本部
 「小さな親切」運動大賞 京葉ガス「小さな親切」の会
 「小さな親切」運動賞 2団体・2個人
 株式会社もみじ銀行甲山支店 広島県
 鹿児島空港ビルディング株式会社 鹿児島県

秋谷 君枝 千葉県鎌ケ谷市「小さな親切」の会副代表
谷口 博子 宮崎県都城支部

第 32 回はがきキャンペーン

第 41 回作文コンクール

入賞作品朗読

作文コンクール内閣総理大臣賞

歌やトークを交えたハートフルコンサート 沖田孝司・千春夫妻

出席者 約 300 名

7. 「小さな親切」誌の刊行 <(一財)日本宝くじ協会助成事業>

- シニア世代の退職後、第二の人生を生き生きと過ごすヒントにと「人生の食とレシピ」シリーズを企画。東京都世田谷区で開催されている「おとこの台所」を取材し、表 2 カラー頁でレシピと参加者の声を掲載したほか、追加情報をホームページに載せるなどの運動もはかった。
- 地域組織の出張に併せて取材を行うことで、交通費の軽減をはかった。
- これまで秋号は 10 月 1 日発行だったが、夏休み等をはさみ全国的に活動があまりないことから、11 月 1 日発行に変更した。

[季刊発行] 年 4 回 (春号 5 月・夏号 8 月・秋号 11 月・新春号 1 月)

[発行部数] 年間延べ 140,000 部

[主な取材先]

春号 5 月：おとこの台所 (東京)、医療法人仙養会北摂総合病院 (大阪)、一般財団法人
仁和会総合病院 (東京)、

夏号 8 月：おとこの台所 (東京)、福井放送・福井県本部・鯖江市立鳥羽小学校 (福井)、
三重県本部、広島県本部、岐阜県本部

秋号 10 月：おとこの台所 (東京)、教育新聞社 (東京)、国立西洋美術館 (東京)、佐野
市立天明小学校 (栃木)、杵築市山香児童館

新春号 1 月：おとこの台所 (東京)、札幌市立中央中学校 (北海道)、幸手警察署 (埼玉)、
明生タクシー (神奈川)

8. 地域の輪・和・環プロジェクト (車いす寄贈運動)

- 原材料の高騰による車いす単価の値上がりについては、昨年度よりあらかじめ懸案事項として説明をしていたため、当該年度の価格変更については混乱を生じなかった。
- 中央本部からの地域組織への車いす配布数の減少に伴い、自費で車いすを購入する地域組織も増えており、当該年度は 14 地域組織が 65 台購入した。
- 熊本県本部では熊本地震を受け、29 台を自費購入して県内の施設や病院に寄贈している。また、周年事業として購入した地域もあった。

寄贈台数 68 台

寄贈先 全国およそ 60 ヲ所の社会福祉施設等 (1 ヲ所に複数台の贈呈あり)

種類 ①BAL-1 (アルミ製) シートカラー：ブルー

自走式/介助ブレーキ (ドラム式) 付/背折れタイプ

キャスター 6×22 インチ/座幅 40 cm/前座高 43.5 cm/全長 98 cm

全幅 65 cm/全高 86.5 cm/重量 12 kg

②希望組織のみ、車いすに有料でプレート 1 枚貼付

文面：「地域の輪・和・環プロジェクト」

公益社団法人「小さな親切」運動本部

—道府県本部・市町村支部—

展開方法	①前年度3月、各地域組織への車いす割り当て台数を決定。自費購入を希望する場合は、5月27日（金）までに中央本部へ申し込む。 ②地域組織は7月6日（水）までに寄贈先を決定し、中央本へ連絡。
贈呈期間	平成28年度10月1日（土）～11月4日（金）
活動報告	車いす贈呈後、所定の報告用紙で随時報告書（新聞記事や写真を添付）を提出。活動は、ホームページや情報誌「小さな親切」で紹介。

9. 日本列島クリーン大作戦（34回目）

- 「伊勢志摩サミット記念 日本列島クリーン大作戦」として活動を展開。サミット開催地である三重県をはじめ、情報通信大臣会合が開催された香川県でも時期を合わせてクリーン作戦を展開。三重県のクリーン大作戦キックオフイベントには、県知事も参加され、報道でも大きく取りあげられた。
- 日本たばこ産業（株）に提供いただいているごみ袋は、当該年度は前年度比39,670部減少となったが、各地域組織では対応策を講じ従来通りの活動を行うことができた。また、地域組織ではJTの協力をチラシに載せたり、当日会場で参加者に告知するなど、JTの協力をピーアールした。
- 広島県本部、またJT中国支社、男子バレーボールチームのJTサンダースに協力いただき、取材内容を動画にまとめてYouTubeにアップしたほか、「小さな親切」誌でも特集を組んだ。

後援	内閣府、文部科学省、総務省、農林水産省、経済産業省、国土交通省、環境省、警察庁
協賛	日本たばこ産業株式会社、コカ・コーラ協会、(公社)食品容器環境美化協会、スチール缶リサイクル協会、(公財)日本環境協会、日本石鹼洗剤工業会
スローガン	美しい日本、美しい心
期間	平成28年4月1日（金）～平成29年2月28日（火）
ごみ袋	170,330部 <協力：日本たばこ産業株式会社（JT）> 内訳：可燃用300 43,500部・不燃用300 55,400部・手提用120 71,430部
[作製物]	新ポスター 2,500部

10. 日本列島コスモス作戦（28回目）

- 当事業は、種苗会社とコスモス種子購入地域組織、団体等の仲介という形で活動を支援しているもので、購入地域組織、団体を通じて地域の学校等に寄贈され栽培されるほか、親切運動のキャンペーンで配布されるなどピーアールに活用された。
- 昨年度、種子協力企業（株）サカタのタネのコスモス種子袋の種子詰不足問題を受け、当該年度は同社よりコスモス種子袋34,000が無料提供された。よって、地域組織の購入数は減少したが、コスモス種子袋の単価は据え置きとなった。
- （株）サカタのタネのdL・Lの種子価格の値上がりを受け、安価なところを探した結果、タキイ種苗（株）より購入することを決定。当該年度は、種子袋は（株）サカタのタネ、種子はタキイ種苗（株）の二本立てとなった。
- 地域組織の（株）サカタのタネへの信頼が低下したことから、理事会で当該年度をもって種子協力企業の変更を決定。次年度よりタキイ種苗（株）に依頼することになった。

発注数	コスモス種子袋 105,310袋
	※その他に（株）サカタのタネ無料提供分 34,000袋

種子 (dℓ・ℓ) 114 dℓ・28ℓ
 発注先 ① (株) サカタのタネ … コスモス種子袋
 ②タキイ種苗 (株) … 種子 (dℓ・ℓ)
 価 格 コスモス種子袋 1袋 11,124円
 ※購入数により端数が生じた場合は四捨五入
 種子 (dℓ・ℓ) 1dℓ 523円・1ℓ 5,225円
 発 送 2社ともに4月中旬
 代金請求と入金 中央本部から5月に請求。同月末日までに入金。

[無料提供分のコスモス種子袋 34,000 の配布割合]

順位1：種詰量不足を中央本部で確認した地域組織には、平成27年度発注数と同数の種子袋を無料提供。さらに、名入れ印刷も平成27年度同様に行う。

順位2：種子数の少ない種子袋が過去にあったとの届け出があった地域組織には、平成27年度発注数に応じて1,900袋～5,000袋を無料提供。

順位3：上記以外の県本部には、原則的に一律700袋を無料提供。なお、平成27年度発注数が700袋以下の場合は、発注実数を無料提供。

11. 使用済み切手・プリペイドカード・未使用はがき寄贈

- 海外支援団体に直接送付してもらったが、個人からのものは中央本部で取りまとめた。

寄贈先 (公財) ジョイセフ …使用済み切手

(公社) 日本キリスト教医療協力会 …使用済み切手

(公財) 緑の地球防衛基金

…使用済みプリペイドカード (平成28年9月まで)

(特定非営利活動法人) 日本国際ボランティアセンター

…使用済みプリペイドカード (平成28年10月以降)

※緑の地球防衛基金が使用済みプリペイドカードの収集を9月で終了したことから、送付先を日本国際ボランティアセンターに変更。

- 使用済み切手協力者氏名をホームページに掲載。

協力者 地域組織5件・企業71社・団体32件・学校14校・個人36名・匿名15件

地域組織 (県本部・支部)					
山形県	酒田の会	山形県	高島の会	宮城県	宮城県本部
京都府	京都府本部	熊本県	熊本県本部		
企 業					
北海道	株式会社 田巻美石園	北海道	株式会社中神土木設計事務所	北海道	北見信用金庫
北海道	北見石油販売株式会社	北海道	三九建設株式会社	北海道	白川整形外科内科
北海道	北海道ガス株式会社 北見支店営業グループ	北海道	北海道銀行 北見支店	福島県	福島架設機工株式会社
東京都	三省堂印刷株式会社	千葉県	新日本メンテナンス株式会社	岐阜県	株式会社東海パウデックス
岐阜県	株式会社松永製作所	島根県	遠藤事務所	岡山県	有限会社岡建
山口県	株式会社日本セレモニー	香川県	タチバナ工業株式会社	愛媛県	いよぎんキャピタル株式会社
愛媛県	いよぎんリース株式会社	愛媛県	いよぎん保証株式会社	愛媛県	サークルコスモス
愛媛県	サンセイ工機株式会社	愛媛県	セキ株式会社	愛媛県	マルマストリグ株式会社松山本社
愛媛県	愛媛信用金庫	愛媛県	愛媛新聞社株式会社	愛媛県	安藤工業株式会社
愛媛県	伊予鉄道株式会社	愛媛県	株式会社イオタオーエーシステム	愛媛県	株式会社いよぎんコンピュータサービス
愛媛県	株式会社いよぎんディーシーカード	愛媛県	株式会社いよぎん地域経済研究センター	愛媛県	株式会社エス・ピー・シー
愛媛県	株式会社えるく	愛媛県	株式会社パイレイ	愛媛県	株式会社フジ

愛媛県	株式会社伊予銀行	愛媛県	株式会社伊予銀行「小さな親切」の会	愛媛県	株式会社積水化成成品四国
愛媛県	株式会社天美住建	愛媛県	株式会社東燃	愛媛県	株式会社シロモト食品
愛媛県	株式会社NOKS	愛媛県	株式会社伊予鉄高島屋	愛媛県	丸美屋文具店
愛媛県	原印刷株式会社	愛媛県	三浦工業株式会社	愛媛県	四国フォトサービス有限公司
愛媛県	四国旅客鉄道株式会社 愛媛企画部	愛媛県	松山宮田郵便局	愛媛県	松山全日空ホテル
愛媛県	松田薬品工業株式会社	愛媛県	城北運送株式会社	愛媛県	瀬戸内運輸株式会社
愛媛県	村上工業株式会社	愛媛県	東京第一ホテル松山	愛媛県	南海プリント株式会社
愛媛県	南海放送音響照明株式会社	愛媛県	富士教材有限会社	愛媛県	明星印刷工業株式会社
愛媛県	有限会社アクティブ・フィーリング	愛媛県	有限会社永井産業	愛媛県	有限会社さんわ
愛媛県	有限会社亀岡モータース	熊本県	大共電通ネットワークス株式会社	宮崎県	株式会社宮崎銀行 西佐土原出張所
鹿児島県	えぐち家	鹿児島県	サツマ酵素工業株式会社	鹿児島県	プリマハム株式会社 鹿児島工場
鹿児島県	南建設株式会社	鹿児島県	有限会社南日本総合保険事務所		

団 体

北海道	置戸町役場	北海道	国際ソロブチミスト北見みんと	秋田県	鹿角市立 館山文庫継承十和田図書館
千葉県	京葉ガス「小さな親切」の会	長野県	ささらの里	大阪府	北摂総合病院
愛媛県	エスポワール愛媛文教会館	愛媛県	えんとつ山俱樂部	愛媛県	ジョブカフェ愛 Work
愛媛県	愛媛県オリエンテーリング協会	愛媛県	八幡浜少年警察ボランティア保内支部	愛媛県	愛媛県社会保険労務協会
愛媛県	愛媛県南予地方局八幡浜支局	愛媛県	伊予中山ホテル保存会	愛媛県	医療法人同仁会 おおぞら病院
愛媛県	一般社団法人愛媛県歯科医師会	愛媛県	一般社団法人松山市医師会	愛媛県	公益財団法人愛媛県体育協会
愛媛県	国際ソロブチミスト八幡浜	愛媛県	今治市役所 市民課	愛媛県	松山NPOサポートセンター
愛媛県	松山商工会議所	愛媛県	大洲市役所肱川支所 地域振興課	愛媛県	川之石公民館
愛媛県	まつやま Re・再来館 NPO 法人 ふれあいエコクラブ	鹿児島県	鹿児島県介護福祉士会	鹿児島県	鹿児島市精神保健ダイケア
鹿児島県	鹿児島市役所 保健総務課	鹿児島県	県社会福祉士会	鹿児島県	県南薩地域振興局
鹿児島県	社会福祉法人寿康会寿康園	鹿児島県	社会福祉法人慈昂会吹上園		

学 校

愛媛県	愛媛県立三間高等学校	愛媛県	愛媛県立松山聾学校生徒会	愛媛県	愛媛県立津島高等学校
愛媛県	愛媛県立弓削高等学校	愛媛県	宇和島市立三間小学校	愛媛県	宇和島市立城南中学校
愛媛県	今治市立鳥生小学校	愛媛県	今治市立清水小学校	愛媛県	松山市立久谷中学校
愛媛県	松山市立正岡小学校	愛媛県	松山市立八坂小学校	愛媛県	新居浜市立船木中学校生徒会
愛媛県	八幡浜市立双岩小学校児童会	鹿児島県	あさひ保育園		

個 人

北海道 5名・福島県 1名・茨城県 2名・埼玉県 1名・東京都 1名・千葉県 7名・神奈川県 1名・愛知県 1名・三重県 1名・岡山県 1名・愛媛県 12名・福岡県 1名・長崎県 1名・鹿児島県 1名

(順不同・敬称略)

12. 推進事業

1) 各地域の親切運動支援

○地方活動助成費の交付

総額 9,042,000 円 (平成 27 年度会費収入の 12% を 6 月に交付)

○次年度の運動方針や重点活動、各事業の展開方法などについて話し合う全国地方本部事務局長会議を開催。当該年度は、事業の変更点や協力要請など内容の濃い会議となった。

[地方本部事務局長会議]

と き 平成 29 年 2 月 17 日 (金) 13:00~16:30

ところ 東京・ベルサール飯田橋駅前 2 階会議室

- 出席者 22 道県本部事務局長・事務局次長・事務局担当者 22 名
 運動本部理事・事務局員
 ○地域組織等からの要請を受け、各種会合への出席や講師派遣を行った。
 〔依頼件数〕 1) 講演 4 回 2) 総会・つどい等 15 回

2) 各種パンフレット、ポスター等の作製

- 地域組織へのアンケートを基に必要数を印刷するなど経費削減に努めた。
- 中央本部の住所表記が平成 30 年 1 月 1 日より変更になるため、当該年度より現在の住所に変更後の住所を加えた。
 - 1) 基本資料

基本パンフレット	12,000 部
実行章パンフレット	5,000 部
 - 2) ポスター

八か条ポスター	2,500 部
実行章ポスター	3,000 部
 - 3) 作品集

タイトル：『しんせつ日和』（作文コンクール・はがきキャンペーン合併版）	4,000 部
-------------------------------------	---------
 - 4) グッズ

クリアファイル	35,000 部
---------	----------
 - 5) 会員証（地方賛助会員）

	1,000 枚
--	---------

【収益事業】

1. はがきキャンペーン作品の書籍化

単行本が発行されず、収益を得られなかった。

2. 「小さな親切」運動グッズの販売

平成 27 年度に定款を変更し、書籍に加えて運動グッズ等の販売が可能になったが、内閣府公益認定等委員会へ提出した変更認定申請の承認が下りたのは平成 28 年度 6 月。年度途中であったため販売には至らなかった。

【その他事業】

1. 総会・役員会

1) 第 6 回社員総会

と き：平成 28 年 6 月 17 日（金） 14：00～16：00

ところ：ベルサール飯田橋駅前 2 階会議室

議 事：第 1 号議案 平成 27 年度事業報告
 第 2 号議案 平成 27 年度決算報告
 第 3 号議案 平成 28 年度事業計画（案）
 第 4 号議案 平成 28 年度予算（案）
 第 5 号議案 任期満了に伴う役員改選（案）
 第 6 号議案 非常勤役員への講師及び原稿執筆謝金について

2) 理事会

5回開催：第27回／5月26日(木)、第28回／6月17日(金)、第29回／9月15日(木)
第30回／平成29年2月9日(木)、第31回／3月23日(木)

理事会内に、『東京オリンピック・パラリンピック準備委員会』を設置
委員(4名) 鈴木代表、山橋専務理事、小林理事、竹内理事
委員会 2回開催

第1回／平成28年12月7日(火)、第2回／平成29年3月23日(木)

2. エコキャップ収集運動

内閣府公益認定等委員会へ提出していた変更認定申請が平成28年6月30日に承認が下り、公益目的事業を終了し、中央本部の一般事業へ移行。よって、地域組織が独自に取り組むことになった。

3. 心の国際交流

内閣府公益認定等委員会へ提出していた変更認定申請が平成28年6月30日承認が下り、公益目的事業を終了し、中央本部の一般事業へ移行。よって、地域組織が独自に取り組むことになった。なお、中央本部は世界親切運動(World Kindness Movement)との関係を従来通り継続する。

【広報活動】

1. ホームページによる情報発信

- 平成28年8月1日、ホームページのリニューアルを実施した。従来から人気の高い「作文コンクール」や「実行章」のコンテンツを見やすく配置したほか、子育て中の女性、シニアなど幅広い年齢層に向けた特集記事を用意。また、地域組織の活動を定期的にレポートした。
- リニューアル直後から9月にかけては、作文コンクール関連の内容を充実させたことに加え、作文コンクール応募期間であったことから、関連するコンテンツがよく閲覧された。
- 「作文コンクール」について「実行章」も一定の訪問があり、ホームページ経由の推薦も15件ほど増加した。
- 前年度のデータがないため増減を確認することはできないが、リニューアルから平成29年3月末まで41,257セッション(訪問数)、121,772ページビュー(サイト内で読まれたページ数)となっている。

2. メディアへの情報提供

- 「青少年すこやか育成事業」や「みんなつながろ、トモダチ作戦」事業の多くは、地元メディアにより広く活動を発信できた。これは、地域組織の取材依頼が功を奏したもので、今後も積極的に組織への呼びかけを行っていきたい。
- 新たな取り組みとして、「小さな親切」運動への理解を深めていただくため、当該年度の事業成果をまとめた「事業報告書」を発行し、ニューズレターと共に、中央メディアや地域組織のある道府県の地方紙等に送付。

【寄 附】

28 頁に「平成 28 年度寄附金及び事業協賛金一覧」を掲載。

寄附者： 28 名
金 額： 407,287 円
寄附の対象は、概ね青少年事業、親切運動全般。

【災害見舞金】

当該年度は「義援金」ではなく、被災者の皆様へ迅速に対応するため「災害見舞金」を選択。
災害見舞金とは：震災や火災などの災害に遭った被災者に対して受取人を指定し、個人や企業、地方自治体からおくることができる。直接受取人を指定できるため、復旧のためにすぐ活用できる。

見舞金名称：平成 28 年熊本地震災害見舞金
受付期間：平成 28 年 4 月 25 日（月）～ 6 月 30 日（木）
見舞金総額：1,310,445 円 / 協力：8 県本部、6 支部、1 企業、1 団体、3 個人
見舞金配布先：熊本県本部 1,060,445 円
大分県本部 250,000 円

※災害見舞金については、「正味財産増減計算書」には記載していない。

平成 28 年度事業報告には、「一般社団法人及び一般財団法人に関する法律施行規則」第 34 条第 3 項に規定する附属明細書「事業報告の内容を補足する重要な事項」が存在しないので作成しない。

会員の概況

	会員区分	平成29年3月31日現在		平成28年3月31日現在	
1	個人正会員	119名		131名	
2	個人寄附会員	14名			
3	法人正会員	33社		53社	
4	法人寄附会員	17社			
5	個人会員	1,621名		8,728名	
6	地方賛助会員	7,120名			
7	団体会員	119,219名		123,648名	
8	学校会員	96校	58,393名	98校	58,992名
	総会員数	186,536名		191,552名	

○ 変更点

1. 当該年度より、保留会員脱会処理後の数字を記載（そのため平成28年3月31日の数字が、平成27年度総会資料とは異なる）。
2. また当該年度より「正味財産増減計算書」にある受取会費は新種別に変更。その内容は、27年度までの「正会員」を「個人正会員」と「個人寄附会員」に、「法人会員」を「法人正会員」、「法人寄附会員」に、「個人会員」を「個人会員」、「地方賛助会員」に分け、会員種別を8（前年度は5）としたもの。

地域組織

33道府県本部
140市町村支部